

小松島市では、スポーツや芸術等の様々な分野において、専門性や技術性の高い講師をお招きし、児童・生徒に知識や技能の向上、豊かな人間性を育む機会を提供しています。

令和4年度中に特別講師として県外からお招きしたプロ外部人材の方々にお話を伺いました。

ZEROKOさん

角谷将視さん(三重県出身)と濱口啓介さん(徳島県出身)によるコメディをベースにしたフィジカルシアターデュオ。日常を多角的に捉え、パントマイムや、道化師の手法であるクラウニングをベースに、緻密さと即興性を持ち合わせた遊び心あふるパフォーマンスを発表している。

この職業を選ぶことに不安はなかったか？

(濱口さん) 不安はもちろんあったが、不安よりも「挑戦しないことへの後悔」をしたくなかった。ずっと好きだった事なので、それを挑戦せずに進むと、後々、自分に後悔をするだろうなということが想像できたので、不安ももちろんあったが、後悔することを考えると、この道を選びたいとなった。

スランプの乗り越え方は？

(角谷さん) 何も考えられなくなったりする時、本当にそれが好きかという事を何度も何度も自分に問う。「やっぱり好きだな」、「もうちょっと向き合ってみよう」という気持ちを確認し、また立ち上がる。もちろん周りの人から言われる事で、立ち上げられることもあるが、やはり、「好きかどうか」を自分に問うという事が立ち上がるきっかけになっている。

(濱口さん) 自分より優れている人は大勢いて、そういった技術を持っている人になりたいと思ってもなれない。劣等感は常にあって、めっちゃくちゃへこんだりもするけれども、「上手かどうか」よりも「自分がそれを好きかどうか」ということに答えを見つけるようにしている。そこに価値を見出すと続けていけるのかなと思う。

大切にしていることは？

ZEROKO の作品の中でとても大切にしていることは「人を描く」ということ。物ではなくて、それに反応している「人の面白み」を表現することを意識している。

他にも…

やりがいは？

(角谷さん) パフォーマンスをして、その場で目の前の人たちが感じた事が直に自分たちに返ってくる。その瞬間に、やっていてよかったなと強く実感する。小松島市の小学校を回らせてもらった時も、すごい反応が返ってきた。「こんなに驚いてくれた」と、私たちも驚きつつ、感動をもらって、原動力になり、より良いものを披露しようという気持ちにどんどん繋がっていく。



夢を追いかけている人にメッセージ



(濱口さん) 好きな事を好きでい続けるという事は自分にしか分からない事だし、それを自分で大切にしていってもらえたらいいのかなと思う。好きな事を追いかけて、道が拓けることがある。自分は小さなころからの「人を驚かせること、笑わせることが好き」を追いかけて、しゃべることが苦手な自分でも表現できるパントマイムに出会い、今では日本、世界各国へ笑いを届けられるようになった。

(角谷さん) 自分の好きという感覚を簡単に疑うのではなくて、信じて、少しだけ頑張ってみる事が大事だと思う。なんでも一回やってみる事が大事。迷うのではなく、失敗してもいいから、ちょっと挑戦してみるとか、そういう事で今までいっぱい学んできたと思う。分からなかったら、やってみる。好きだったら、ちょっとだけ頑張ってみる事が大事だと思う。

堀尾 和孝さん

小松島出身のアコースティックギタリスト。卓越したテクニックはもちらんのこと、老若男女を引き込む、圧倒的かつ楽しいライブパフォーマンスは国内外で高い評価を受ける。俳優大杉漣さんと15年間、音楽活動を共にする。現在、お笑いのメッカ浅草東洋館に出演、東邦音楽学校ギター&ウクレレ講師も務める。小松島市ふるさとアンバサダー。

ギターを選んだきっかけは？

中学の文化祭での演奏が人生でファーストステージ。純粋にギターを「何でこんなに楽しい、気持ちの良いものなんだろうな」と思っていた。ギターを弾くとすごい心地よかった。変なプレッシャーやストレスは全くなかった。楽しさしかなかった。

スランプの乗り越え方は？

自分より上手な人を数えると際限が無い。上手くなるというより、自分なりの個性を見つけ、磨いてきた。勝ち負けではなく、逆にその人をリスペクトして、吸収したいと思うことはあった。人と真正面から喧嘩するよりは、自分の個性をどうやって見つけるかという方に力を入れた。諦めずに自分なりのスタイルを追求してきた。

夢、目標の見つけ方は？

夢が見つかる人はラッキー。それを続けることは自分の熱意だけではできないところもあるし諦めなければならぬ時もあるかもしれない、人によって運命的なことはあると思う。でも、そこで何かを努力したことが、その人の人生の中で次のモチベーションになっていくと思う。

大切にしていることは？

自分が楽しいのはもちろんだが、いかにお客さんを楽しませて幸せな気分にして帰ってもらえるかっていう事を「お客さんファースト」にして考えている。

他にも…

プロとは？やりがいは？

人生って誰でもサービス業だと思う。ひとを幸せにするために生きている。人に幸せだったり、喜びだったり、笑いだったり、楽しんだり、そんないい気持ちになってもらってこそその「プロ」だ、というのが信条。「人を楽しませるためにはどうしたらいいか」という事を常に、常に考えて、そのために練習やルーティーンを続け、スキルをキープして、いつも最高のパフォーマンスができるように心がけている。期待に応えることはプレッシャーでもあるし、楽しみでもある。ストレスでは無い。ポジティブな、自分に対する「やりがい」がそこに生まれる。これだけ今でもライブをしているということがその証拠。



夢を追いかけている人にメッセージ



「諦めないこと」。諦めないでいると何か見つかるから。夢に近づく努力をしない限りは「何か」は見つからない。1センチでも2センチでも自分の夢に近づいていく途中でしか見つからない。目標に対して何かしていると「あ！こうやってすると何かいいな」という、自分なりの何か必ず見つかる。それを伸ばしていつのうちにまた次が見つかる。その連続。成功ばかりではない。素質があって天才と言われている人も、考えて考えて、ルーティーンを積み重ねて成功を手に入れている。本当の天才と言われている人は「努力」とは思わない。みんな、楽しくてしている。お金なんかより大切なことがそこにある。人生のやりがい、楽しみのようなものが。